

PRAEVIDENTIA DAILY (6月16日)

昨日までの世界：大英帝国の逆襲が続く

先週金曜は、対ポンドを除いてドルが対主要通貨で総じて堅調な展開だった。ポンドは前日の Carney・BoE 総裁のタカ派発言の余韻が続いたかたちで、対ドルで直近高値の 1.6996 に迫る 1.6992 ドルへ続伸、ユーロ/ポンドは 0.80 ポンドを割り込み年初来安値（ポンド高値）を更新、一時 0.7973 ポンドへ下落した。ポンド/円も一時 173.37 円へ上昇したが、今年 1 月 2 日に付けた直近高値（174.85 円）には若干距離がある。

その他では、ドルが対円、NZ ドル、豪ドル、ユーロで堅調だったが、特に材料はなく、前日のドル下落の反転といった面が強いようだ。ドル/円も米長期債利回りとはあまり関係なく、むしろ日経平均の上昇と歩調を合わせる形で前日に 102 円から 101 円台半ばへ下落した分を戻したかたちだ。日銀決定会合および黒田総裁記者会見は想定通り、追加緩和の必要性を匂わせるものでは全くなかったが、安倍首相が来年度以降の段階的な法人税減税の方針を示したことが株高に繋がり、過去連動性が高かったドル/円の押上げ要因となった面はあるかもしれない。但し、法人減税は財政収支を悪化させるリスクがあり、その点からはアベノミクスに対する国際社会（他国）の目は厳しくなるリスクはある。この間、米経済指標は軟調で、総合 PPI、コア PPI 共に前年比 +2.0%と前月および市場予想を大きく下回ったほか、6 月ミシガン大消費者信頼感速報値も 81.2 と前月および市場予想を下回ったが、ドルの反応は殆どなかった。

中国主要経済指標では固定資産投資や鉱工業生産は予想通りだった一方、小売売上高が前年比+12.5%と前月および市場予想を上回り、NZ ドルにとって好材料だったはずだが、NZ ドルはむしろ前日早朝の RBNZ 利上げ後の 7 月追加利上げ期待を受けて大きく上昇した後だっただけに、反落圧力の方が大きかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.3	+0.02	+0.01	-0.00	+0.01	+0.01	+0.00	+0.3	+0.8	+0.4	+0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.02	-0.01	+0.01	-0.03	-0.02	+0.01	-0.3	+0.3	+0.0	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.2	+0.11	+0.13	+0.01	+0.02	+0.03	+0.01	-1.0	+0.3		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.3	-0.02	-0.00	+0.01	-0.05	-0.04	+0.01	+0.3	+0.9	+0.4	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.3	+0.01	+0.02	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.3	+0.9	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	-0.00	+0.3	+0.4	+0.4	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.4	+0.05	+0.05	-0.00	+0.01	+0.02	+0.00	-0.7	+0.1	+4.1	+4.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.8	-0.08	-0.03	+0.05	-0.01	+0.01	+0.02	-0.5	-0.7	+4.3	+0.01
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.7	-0.05	-0.00	+0.05	-0.01	+0.01	+0.02	-0.3	-0.7	+2.0	+1.5
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+1.9	+0.17	+0.22	+0.05	+0.10	+0.11	+0.02	-0.3	-0.7	+2.0	+1.5
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+1.0	+0.13	+0.18	+0.05	+0.07	+0.09	+0.02	-1.2	-0.7		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.7	+0.02	+0.05	+0.03	+0.02	+0.02	-0.01	-0.3	-0.7	+4.1	+1.5

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょう（16日）の高慢な偏見：オランダの影響力に期待

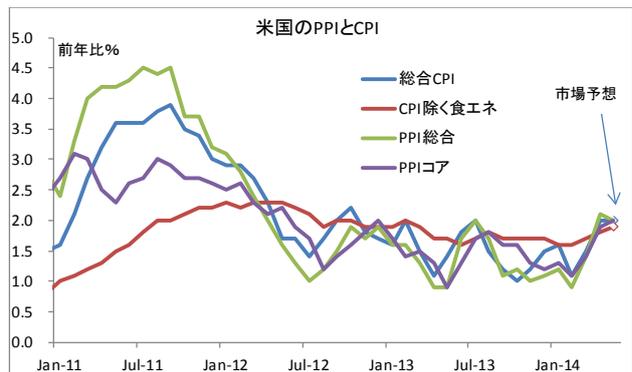
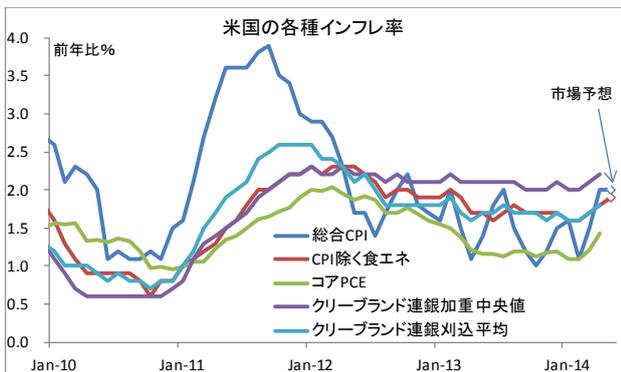
きょう（16日）の注目通貨：EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Kent・RBA 総裁補発言	12:20			労働市場関連
ユーロ圏総合 HICP 改定値・前年比	18:00	+0.7%	+0.5%	速報値は+0.5%
米 6月 NY 連銀製造業景況指数	21:30	19.0	15.0	
米 5月 鉱工業生産・前月比	22:15	-0.6%	+0.5%	
同・設備稼働率		78.6%	78.9%	
米 6月 NAHB 住宅市場指数	23:00	45	47	

（出所）プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は重要指標が少なく全般的に小動きとなる可能性が高いが、中ではユーロ圏 HICP 改定値に注目したい。市場予想は速報値から変わらずの前年比+0.5%だが、速報値発表（6月3日）後のユーロ圏諸国の HICP 発表をみると、フランス（+0.8%）、スペイン（+0.2%）分は予想通りだったが、圏内 5 番目の経済規模（シェア 6.3%）のオランダ分が前月および市場予想の+0.6%から+0.1%へ急低下していることから、ユーロ圏分もどちらかというところ下方修正されるリスクがある。+0.5%を割り込むと一層ゼロに近くなることから、将来的な量的緩和導入期待に繋がリユーロが続落するだろう。ユーロ安は特に対ポンドで出易い。

なお、13日付当レポートでは米 CPI と連動性が高い米 PPI の前年比伸び率が大きく上昇する予想であったことから、CPI も低目の市場予想を上回る可能性があり、ドル/円の押上げ要因とみていた。もっとも、先週金曜の米 PPI が予想外に低い結果であったことから（前述）、PPI との連動性からみた CPI の上振れリスクは後退した（下図を参照）。CPI のじり高傾向自体は、将来の FF 金利引上げの必要性を高め、ドル下支え要因ではあるものの、大きく上振れしてドル/円が 103 円を目指すような結果となる可能性は後退したといえよう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641